

こっこめ通信 04 2025

「やっぱり凄い！」号



八丈島ではアカコッコのことを親しみを込めて
「こっこめ」とよびます。

3月に入って気温も順調に上がり、春を感じる日が多くなりました。園内のオオシマザクラは3月10日頃から急に開きはじめています。またソメイヨシノの標本木は、3月28日に6輪以上の花が咲き、その日を八丈島の「さくらの開花日」としています。寒い冬のおかげで、例年よりも蕾が多く、今年は満開日の記録も残せそうです。（ここ数年は花の数が少なく、満開日の記録を残せていませんでした）

さて、今回は「大人クラフト『蔓かごを編もう』」講演会『ここが凄い！八丈島と八丈小島』についてのお話です。

大人クラフト「蔓かごを編もう」

毎月第4土曜日に行われている八丈学講座。今年度最後の八丈学講座は3月22日（土）に開催されました。

今回は参加された皆さんと一緒に「自然から頂いた素材で生活雑貨を作ってみよう！」と思い立ち、蔓かご編みに挑戦しました。蔓と言えば、アケビやエビヅル、フジやサルトリイバラなどを思い浮かべますが、今回は秋にきれいな花を咲かせていたクズの蔓を使ってかごを編みました。

縦芯4本を2本ずつに分け、中央で十字に重ねる。次に横糸となる長い蔓の先端を縦芯の先に合わせ、十字に重なっているところで折り返し、編み始めます。

この工程が一番難しかったようで、あれ？あれ？と頭を悩ませてしまいましたが、皆さんで教え合って難関を乗り越えました。後は、概ね順調に編み進められました。

編み終えた方からニス塗って仕上げをし、それでも時間が余った方はビロウの葉を使った沖縄地方の民具を真似たかご作りも行いました。色々な作り方があるようなのですが、今回は蔓かご編みに予想以上に時間がかかってしまったので、急遽ビロウのかごは、ビジターセンターオリジナル（？）の超簡単な作り方でかごを作りました。

蔓かごもビロウの葉で作ったかごも個性豊かな作品に仕上がり、世界に1つだけの作品が出来上がりました。途中でこんがらがった方も、初めてとは思えない手際でテキパキできた方も、皆さん最後まで頑張った甲斐がありましたね！ 苦勞して自分で作った道具達、愛着湧きますね！ ぜひ、大切に使ってくださいね。

八丈学講座は来年度も毎月第4土曜日に開催します。来月は4月26日（土）「鳥の声を聞いてみよう」です。島の鳥はどんな声で鳴くのかな？ 正解は、次回八丈学講座で確かめましょう！（M.K.）



「アカコッコ」は日本固有のツグミ科の鳥で、国の天然記念物に指定されています。
八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

講演会「ここが凄い！八丈島と八丈小島」

3月13日（木）、「ここが凄い！八丈島と八丈小島」と題した講演会を開催しました。本講演では、伊豆諸島の島々の動植物を長く調査・研究し、八丈島の生きものにも精通されている筑波大学生命環境系教授の上條隆志氏が登壇し、八丈島や伊豆諸島の動植物の固有性と保全についてのレクチャーや、守るべき自然の価値について、熱い語りが展開されました。当日は定員を超える57名の参加者が集まり、島民の自然への関心の高さを改めて確認する機会にもなりました。



以下、講演内容を振り返ってみます。

1. 八丈島と伊豆諸島の自然の魅力について

まず八丈島や伊豆諸島には、固有性の高い生物が多数存在していることが示され、その上で火山活動による様々な遷移段階の植物が存在すること等も紹介されました。自然の固有性については具体的な事例を交えて紹介があり、特に印象に残ったのは、島の植物の、①葉の大型化（ラセイタタマアジサイ）②棘の退行（シチトウタラノキ）③花の芳香（ニオイウツギ・ニオイエビネ）④花冠の小型化（シマホタルブクロ）等の傾向が、本土との比較の中で島固有の特徴として挙げられたことでした。

2. 八丈小島の自然の魅力について

次に、捕食者のイタチやヘビが生息していない八丈小島のオカダトカゲ（幼体の特徴である体のストライプや青い尾が目立たない）が、伊豆諸島本来の典型的な生態系（＝驚くべき単純な生態系）が残されている唯一の島の象徴として紹介されました。無人島になった後、大繁殖したノヤギ駆除の成功によって、予想を超える自然へのプラスの影響がもたらされ、それが無人島化以前には存在していなかったハチジョウススキの群生やクロアシアホウドリの営巣等に繋がっていることが示されました。その上で、1969年までに無人島化したというタイミング（まだ島間の人の往来も今ほど激しくなかった時代背景）のお陰もあり、他地域の生物の侵入を阻止できていたことも、今日の生態系の保持に繋がったのでは、との話がありました。さらに小島における陸産貝類の種類と個体数の多さも紹介され、小島の生物の多様性について「凄い！」という感想を持ちました。

3. 八丈小島の自然の保全について

最後に、貴重な自然環境を持つ無人島である八丈小島の生態系を守るための保全活動の重要性について言及がありました。外来種対策や生態系のモニタリングを進めながら、今後、アホウドリやカンムリウミスズメの繁殖地になる可能性を踏まえて、適正な利用や管理の必要性が参加者に共有され、特に外来種対策については、人間が上陸する際の厳格な管理の必要性に加えて、ニホンイタチやアマミサソリモドキの侵入は絶対に阻止しなければならないことが強調されました。

4. まとめ

八丈島と八丈小島の生きものたちの凄さについて、守るべき価値が参加者に共有され、火山島である島の生態系を守ることの重要性を改めて考える機会となりました。本講演はエコツーリズム協会とダイビング事業者協会へ直接声掛けした甲斐もあり多数の参加者に来場いただいたので、講演の趣旨である自然リテラシーがレクチャールームから島内全体に波及すれば良いと思います。上條氏の「現場に行かなくても自然の価値は享受できる」という言葉が印象的でした。（R.T.）



八丈植物公園季節調査会の報告

今回は4名の参加者と一緒に賑やかな季節調査会となりました。足もとは、先月まであまり見られなかった小さな春の花々が咲きだし、季節の移ろいを参加者みんなで感じる事ができました。

前回、ノジスミレの仲間とアツバスミレの区別が難しいという話題が出ていたので、比べてみることにしました（下見の調査で運良くこの2種が近くにある場所をみつけておきました）。2つのスミレを比べると、一目瞭然、違いがはっきりしました。並べると、こんなに違いますねと、盛り上がりました。（M.K.）

八丈植物公園季節調査 2025年3月9日（日）、天気：くもり、気温：12.8℃ 調査者：4名 VC：2名

1	ヤブニッケイ	熟した実残る			
2	タコノキ	気根の長さ 63cm、太さ 10.5cm 雌株に実			
3	オオタニワタリ	最長丈 118cm、幅 15.5cm、胞子囊、新芽目立つ			
4	ニオイウツギ	新葉出る			
5	ニオイバンマツリ	紫色の新葉出る			
6	オオシマザクラ	咲きそうな蕾を確認。別の場所では開花			
7	アオキ	花・実	34	シェフレア	実熟す
8	アオノクマタケラン	実残る	35	シチトウスミレ	花
9	アカメガシワ	赤い新葉	36	シャリンバイ	新芽
10	アシタバ	花	37	シラン	花芽
11	アツバスミレ	蕾	38	シロノセンダングサ	花・実
12	アレチノギク	実	39	スズメノカタビラ	花
13	イヌビワ	実残る	40	ソテツ	実残る
14	イワニガナ	花・実	41	ソメイヨシノ	冬芽ふくらむ
15	インドゴムノキ	実	42	タイミンタチバナ	花
16	ウスベニニガナ	花・実	43	タネツケバナ	花
17	ウツギ	新芽・新葉	44	ツルグミ	実
18	ウラシマソウ	花	45	ツルソバ	花
19	オオアリドオシ	実	46	ツワブキ	花残る・実
20	オオイヌノフグリ	花	47	テイカカズラ	落ちた実
21	オオシマカンスゲ	花残る・実	48	トベラ	花芽
22	オオバコ	花	49	ノジスミレの仲間	花
23	オオバヤシャブシ	雄花・雌花	50	ハチジョウアザミ	蕾・実
24	オニタビラコ	花	51	ハチジョウキブシ	雄花
25	ガクアジサイ	新葉	52	ハチジョウテンナンショウ	蕾・花
26	キランソウ	蕾・花	53	ハナイバナ	花
27	キルトンサス	花	54	ハルジオン	花
28	コケリンドウ	蕾	55	ヒガンバナ	葉
29	コナスビ	花	56	ヒサカキ	雄花・雌花
30	コハクサンボク	蕾	57	ヒナギキョウ	蕾
31	コハコベ	花・実	58	ホウライアオキ	実熟す
32	コブシ	花	59	モンステラ	実
33	サカキカズラ	鞘たくさん	60	ヤツデ	実
61	ヤブツバキ	花			
62	ルリゴクラクチョウカ	花			
					シダ植物
					1 イシカグマ
					2 ウチワゴケ
					3 オオイタチシダ
					4 オニヤブソテツ
					5 カニクサ
					6 スギナ
					7 タチクラマゴケ
					8 タチシノブ
					9 タマシダ
					10 ナチシケシダ
					11 ノキシノブ
					12 ハチジョウカナワラビ
					13 ハチジョウシダ
					14 ハマハナヤスリ
					15 ヒトツバ
					16 ヘゴ
					17 ヘラシダ
					18 ホシダ
					19 ホラシノブ
					20 マツバラン
					21 マメツタ

八丈島では、内地と少し様変わりした種や独自に進化した種など、聞き慣れない種があるのが特徴です。今回は、講演会でも紹介された「コウヤコケシノブ」にスポットを当ててみたいと思います。



コウヤコケシノブ *Hymenophyllum barbatum*

コケシノブ科コケシノブ属。日本では青森県以南から四国、九州、琉球に分布しています。樹幹や岩上に着生する常緑性のシダ植物。

島では標高の高い湿った場所で見られ、葉身の長さは4～8cm程、裂片の縁には鋸歯があり、胞子囊群は裂片の頂端に単生します。

講演会では、八丈富士の雲霧低木林の話の中で紹介されました。（H.T.）

2025
04

ハチビジターセンター プログラムカレンダー

日付の下に書かれている時刻は、ハチ島(神湊)の潮の満ち引きの時刻です。
また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
この色の日は ガイドウォークや 特別行事があります		1	2	3	晴明 4	5 ガイドウォーク
6 ガイドウォーク	7	8	9	10	11	12 ガイドウォーク
13 ガイドウォーク 植物公園季節調査会	14	15	16	17	18	19 ガイドウォーク
穀雨 20 ガイドウォーク	21	22	23	24	25	26 ガイドウォーク ハチ学講座「鳥の 声を聞いてみよう」
27 ガイドウォーク	28	昭和の日 29 ガイドウォーク GW特別行事「春の ハチ富士ハイキング」	30			

イベントプログラム

植物公園季節調査会

植物公園内で動植物の調査をしながら季節の変化と一緒に感じましょう！
4/13 (13:30～ 約1時間半)
中学生以上 ビジターセンター集合・解散 参加費：無料 定員：10名

ハチ学講座 「鳥の声を聞いてみよう」

毎月行っているハチ学講座。島ならではの鳥たちの声が聞けたらいいなあ
4/26 (13:30～ 約1時間半)
中学生以上 現地集合・解散 (開催場所は 大川浄水場周辺 または 泉親水公園) 参加費：50円 定員：10名

ゴールデンウィーク特別行事 「春のハチ富士ハイキング」

毎年恒例のハチ富士ハイキング。天気が良ければお鉢巡りもします！
4/29 (9:30～15:30)
小学生以上 (小学生は保護者同伴) 鉢巻き道路登山口集合・解散 参加費：50円 定員：15名

植物公園ガイドウォーク

解説員が植物公園内をご案内します。
毎週 土日祝日及び休日、(10:30～約1時間) だれでも参加できます。
ビジターセンター集合・解散 無料 定員：10名

ビデオプログラム

10:00～ ハチ・海・生きものたち
11:00～ おじゃりやれ ハチ島
14:00～ おじゃりやれ ハチ島
15:00～ おじゃりやれ ハチ島
16:00～ ハチ・海・生きものたち
上記以外での上映は予約にて可能です

東京都ハチビジターセンター 2025.4.1 第287号

開館時間 9:00～16:45 年中無休 (入場無料)
〒100-1401
東京都ハチ島ハチ町大賀郷2843
電話：04996-2-4811 Fax：04996-2-4888
<https://www.tokyo-park.or.jp/park/hachijo/>

編集後記

今回の講演会終了後、サプライズで伊豆諸島自然史研究会が撮影したクロアシアホウドリのヒナのポストカードのプレゼントもありました。
ジェラテリア 365 で販売しているクロアシアホウドリグッズの売り上げの一部は、保護や調査費用に活用しているとの事です。(H.T.)